



# 二葉だより

令和6年9月2日 NO.5

墨田区立二葉小学校

校長 山崎 隆



## オリンピックとウェルビーイング

校長 山崎 隆

この夏の話題といえばフランスのパリで開催されたオリンピックです。連日の熱戦や選手の活躍を通して子供たちも様々な思いを持ったことでしょう。私はオリンピックを通して、「ウェルビーイング」の要素である、自己肯定感、心身の健康、協働性、自己実現、多様性への理解等とスポーツの関わりについてあらためて考えました。以前紹介したスイスの心理学者カール・ユングによる「幸せの条件」をキーワードに、感じたことをまとめてみます。

### 【健康であること】

近代オリンピックはフランスのピエール・ド・クーベルタンの提唱で始まりました。また、クーベルタンはオリンピックを通してスポーツと教育を結びつけ、健全な体を作ることに加えて、努力したり自分の限界に挑戦したりすること、相手を尊重したりフェアプレーを大切にしたりすることなどの心も育てることに大きな価値があることを示しました。健康であることは健全な体と豊かな心が一体となった状態であり、学校教育においては「知・徳・体」と言われるように、学力と体力そして豊かな心をバランス良く育むことが子供たちのウェルビーイングの向上につながります。体育学習においても、運動量だけに目を向けるのではなく、子供たちが課題を自ら見いだしたり仲間とともに運動を楽しんだりすることで運動の質や子供のウェルビーイングの高まりを目指しています。

### 【やるべき仕事があること】

「やるべき仕事」はそれぞれの種目における明確な目標です。選手は、相手に勝利することや自己の記録に挑戦するという目標をもって競技に臨みます。陸上100m準決勝ではサニブラウン・ハキーム選手が9秒96の自己ベストを更新しました。また、自分の型や得意技を「やるべき仕事」として会場を沸かせた選手もいます。柔道48キログ級の角田夏実選手はともえ投げや関節技を磨いて頂点を極めました。水泳400m個人メドレーの松下知之選手は得意の自由形で猛追し、銀メダルに結びつけました。学校教育においても、子供たちが目標をもつことや自分のよさに目を向けることは自己を成長させたり高めたりするために大切なことです。

### 【人と仲良くしていくこと】

団体競技はもちろんのこと、個人競技においてもコーチやスタッフを含めたチームの力が選手のパフォーマンスを後押ししていました。フェンシングのフルーレ団体では最年少の飯村一輝選手が「チーム一丸となって世界一を達成できてよかった」と述べています。ゴルフ銅メダルの松山英樹選手はキャディーの早藤さんや丸山監督らと4日間を戦い抜きました。また、選手のインタビューでは、みんなの想いや家族の支え、応援する人たちの声援などが大きな力になったという言葉が多く聞かれました。学校生活においても、子供たち同士のつながりや協働などを多くの場面で大切にしていきたいと思えます。

### 【美しいということを感じられること】

オリンピックをはじめとするスポーツの力は、選手一人一人の努力のすばらしさや最後まで諦めない気持ちなどが大きな感動を呼ぶことです。最終種目の鉄棒で逆転の金メダルに輝いた体操の団体総合では、主将の萱和磨選手が何度も「諦めんな」と仲間を鼓舞する姿がありました。スケートボードの堀米雄斗選手は、「悔いだけは残さない」という強い気持ちで、実戦で1回しか成功していない大技で7位からの大逆転を決めました。子供たちも、選手一人一人の困難な場面に打ち勝つ努力や自分を信じる強い気持ち、最後まで諦めない姿、悔いなくやりきった表情や悔しさをにじませる表情などから、スポーツのすばらしさや美しさ、そして感動をたくさん感じる事ができたのではないのでしょうか。

パリでは引き続きパラリンピックが行われています。夏休み明けの子供たちには、パラアスリートが競技に取り組む姿や選手を支える人々の姿などから多くのことを学んでウェルビーイングにつなげてほしいと思えます。